

### 只見ユネスコエコパークがめざすもの⑥

#### — 教育研修と人材育成 —

只見町の自然環境や野生動物を守りながら、それらの地域資源を絶やさず、賢く利活用できる人材を育成する取り組みをご紹介します。

#### 只見町公認自然ガイドの育成

只見町では、「只見町公認自然ガイド」(以下「公認ガイド」という)の育成をしています。公認ガイドの役割は、只見町の自然環境と地域資源を掘り出した地域づくりを推進するため、町固有の自然や文化を町内外の方々にガイド活動を通して紹介することです。それと同時に、来町者へ只見町の自然環境や生活文化の保全の重要性を理解してもらい、協力してもらえらるるよう働きかけることも重要な役割です。このような活動は、自然環境や歴史文化を体験して学ぶとともに、それらの保全に責任をもつ観光形態、すなわち



▲只見町公認自然ガイドの研修(只見沢)

「エコツーリズム」の推進に寄与するものです。いわば、公認ガイドは、ユネスコエコパークが理念とし目的とする、地域の自然環境を守りつつ、持続可能な形で利活用することで地域の社会経済的発展を目指す、ことを体現する方たちなのです。公認ガイドは、町の実施する

研修を受けた後、認定の申請をして認定基準に合致した人が認定されます。現在、二〇名が認定されています。公認ガイドの方々は、認定後も町の研修に参加することでその技術や能力の向上を図っています。いま、公認ガイドが同伴するツアーが、恵みの森や癒しの森を中心に年間一〇〇〜一五〇回ほど実施されています。

かつて町の観光は、田子倉ダムを中心として大人数が訪れるマストツーリズム(大衆観光)がさかんでした。しかし、現在そうした観光形態は減少しつつあります。近年の観光客の旅行志向や町の受入体制からいって、これからは少人数を対象としたエコツーリズムやグリーンツーリズムを推進しながら、そこで活躍できる人材を育てていくことが、町の将来につながるのかもしれない。

#### ユネスコエコパークと

#### 只見町の未来

ユネスコエコパークが、直接的に利益を生みだし、過疎高齢化を劇的に解決してくれるものではないでしょう。どちらかと言えば、これまで紹介してきたような地味で地道な事業を確実に積み重ねていくことで、じわりと効果が現れてくるものと言えます。

ユネスコエコパークは、只見町にとってほんとうに大切なものは何かということを示しています。それはユネスコエコパーク登録の理由ともなった豊かな自然環境と生物多様性、それらを掘りどころとして伝承されてきた生活文化です。そして、これらを基盤として、生きていくという指針を与えてくれます。とはいっても、大切なものを守ることは並大抵ではありません。しかし、将来の世代(子どもや孫たち)のことを思えば、今の世代(私たち)が私利私欲にとらわれることなく、いかにしたら次の世代まで健全に生きていくことができるかを考えていく行動していくべき時期にきてい



▲梁取の養蚕万歳  
親から子、子から孫へ、大切なものが引き継がれ、各世代が幸せに生活できる地域であってほしい

ます。ほんとうに大切なものは何か、どうやって守り活かしていくのか、そういった選択や方法に迷った時、ユネスコエコパークは大きな力となってくれるはずですよ。  
「豪雪に育まれた自然と生活文化を守り、活かす」という只見ユネスコエコパークの精神のもと、これからも取り組みが継続されていけば、町のすすむ方向は自然と見えてくると思っています。